

まちづくり交付金 事後評価シート
加茂中地区

平成21年12月

島根県雲南市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	島根県	市町村名	雲南市	地区名	加茂中地区			面積	94ha			
交付期間	平成17年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	571.3百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業		道路(市道本町線、市道加茂中央1号線、一般県道加茂中停車場線)、地域生活基盤施設(新町交差点広場)									
	提案事業		地域創造支援事業(新町防火水槽)、まちづくり活動推進事業(社会実験、ワークショップ)									
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業		市の財政状況や近隣地域での類似施設の整備状況等を鑑み、モニタリングにより事業効果の再評価を行い後年に維持管理経費を伴う公共施設建設の計画を削除した。			センター施設等の中止により交流人口の計測が不可能となったため、数値目標から削除した。				
	提案事業		地域創造支援事業(加茂中駅舎整備)		同上			同上				
交付期間の変更		当初変更		平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		当初変更なし				
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	住民が住みやすくなったと思う割合	%	0	H16	35	H21	28	80	あり	歩道や街路灯、住民が集える広場などを整備したことにより生活環境は確実に向上しているうえ、整備に際して社会実験やワークショップを開催し住民の意見を反映していることから、住民が住みやすくなったと思う割合は確実に増加している。	平成22年5月
	指標2	生涯学習教室の開催回数	回/年	120	H16	300	H21	135	385	あり	文化協会等の活動が活発であるうえ、関連事業として整備した図書館での生涯学習教室も始まり、生涯学習教室の開催回数は増加している。また、本計画で整備する「のびのび広場」が整備されることにより、屋外での活動も可能となり、さらなる開催回数の増加が見込まれ、楽しく学べる生涯学習環境が充実する。	平成23年3月
	指標3	地区内人口	人	1,500	H16	1,550	H21	1,548	1,578	あり	地区内の整備に伴い居住環境の向上が図られることから、地域の住みやすさについて評価できると考えている。また定住施策により年々人口が増加する傾向にあることから、地区内人口は確実に増加している。	平成22年4月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
その他の数値指標1		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 整備区域内に設置した街路灯は、地域資源である銅鑼をデザインしたことで、銅鑼出土地としてのイメージ作りが出来た。 整備区域内に整備した広場は、地元住民による定期的なイベントに利用されるなど、地域の賑わいの創出に寄与している。 整備区域内の歩行空間を整備したことで、小中学生の登下校時の安全性が向上した。 											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	中間モニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				第三者による事業評価により事業の妥当性や事業効果の見通しを見出すためには有効な手段であり、今後、他事業においても導入を検討する。				
	住民参加プロセス	・ワークショップ ・社会実験		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				ワークショップでは、住民意見が反映できることから計画への合意形成が図りやすくなることから、住民同意を得るための有効な手段であり、今後、他事業においても導入を検討する。また、社会実験では、直接住民の意見を伺うことができ、ワークショップと同様に住民意見が反映出来ることから計画への合意形成が図りやすくなることから、住民同意を得るための有効な手段であり、今後、他事業においても導入を検討する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	広場の運営管理を地元商店街で行う		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後引き続き組織の構築を推進し、構築後には管理を実施する予定である。				

様式2 - 2 地区の概要

加茂中地区(島根県雲南市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標:誰もが快適に暮らせる住環境整備の促進と、楽しく学べる教育・文化環境の充実 目標1:少子高齢化に対応した快適な住環境の整備 目標2:住民が学び集う生涯学習環境の充実	住民が住みやすくなったと思う割合	単位: %	0	H16	35	H21	80	H21
	生涯学習教室の開催回数	単位: 回/年	120	H16	300	H21	385	H21
	地区内人口	単位: 人	1,500	H16	1,550	H21	1,578	H21



まちの課題の変化

- 展示、保管施設の建設は、市の財政状況や周辺施設の状況から凍結となったが、商店街に銅鑼をデザインした街灯を設置するなど、まちのイメージづくりを行うことが出来た。また、神原神社古墳へとつながる市道神原堤防線の整備により、遺跡への来訪者の利便性を向上することが出来た。今後は出土品の展示、保管施設整備の可否を含めた検討が課題として残っている。
- 幹線道路では歩道の幅やバリアフリー化を図り、商店街の道路では歩車共存道路として整備することで、安全で歩きやすい歩行空間の確保が出来た。一方、生活路線全体での整備まで行き届いていないことが今後の課題となっている。
- 地域住民により、新町交差点広場を活用したイベントが定期的で開催され、賑わいの創出につながっている。また、のびのび広場では、高齢者から子どもまでが集える異世代交流の場としての利用が見込まれる。
- 歩道整備や生涯学習施設の充実により住みやすい環境が整ったことから、新たな住宅団地の施行や民間アパートの進出により、地区内の人口は確実に増加している。
- 商店街において道路やイベント広場などの公共施設は整備したものの、賑わいの中心となる店舗数は確実に減少しており、商店街の活性化や空き店舗の利用などが今後の課題として残っている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 今後も継続的に地区内の住民によるコミュニティーの形成を促すまちづくりを進めていく。
- 商店街での路上駐車排除など、交通安全部局との連携を取り、安全な歩行空間の確保に努める。
- 地区内の宅地情報を発信することにより定住促進を図ると共に、需要に応じた新規宅地の供給を行う必要がある。
- 施設整備には建設や維持管理に相当な費用が必要となることから、県立施設など近隣で整備された施設と地域を結ぶソフト事業の展開が必要となる。
- 地区内の道路は家屋が接していることから幅による歩道設置が困難であり、歩車共存道路による整備が必要となる。
- 老朽化した空き店舗の再利用は困難であることから、除却による跡地利用が有効である。